

本時の振り返り

1 第2学年『ひき算のしかたを考えよう』(5/10)

2 本時の概要

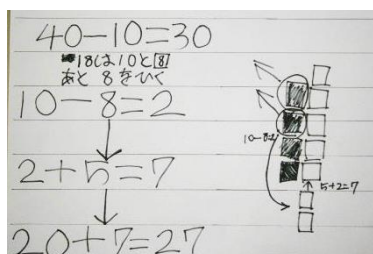
繰り下がりのある2位数-2位数「 $45-18$ 」の計算方法を考え、理解し、筆算の形式で計算をする。

前時に、一人一人が考えた「 $45-18$ 」の計算の仕方を集団検討し、既習の学習内容「 45 を 30 と 15 に分ける」「 $15-8=7$ 」「 $3-1=2$ ($30-10=20$)」「 $20+7=27$ 」と、図や言葉や式を用いて考えることを知り、筆算の方法と関連付け、まとめられるようにする。「 $63-19$ 」の当てはめ問題を行うことで、理解を確かなものとする。

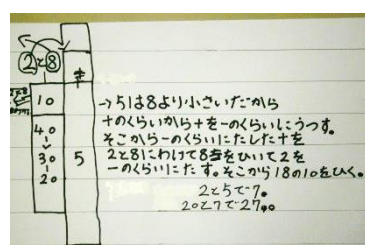
3 実践の振り返り

(1) 思考整理を助ける意図的指名

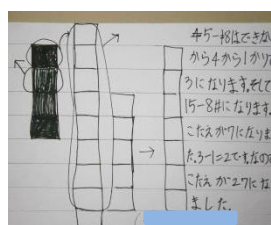
本時では、「 $45-18$ 」の計算をどのように考えるか、4つのパターンに分類した児童の考えを予想していた(下図参照)。実際は、筆算の計算の手順と、図や式を組み合わせた【C】【D】の混合型が多かったが、計算することはできても考えをノートにかけない児童も数名見られた。1年生の繰り下がりのあるひき算の「ひけないときには10のまとまりを分けて考える」をもとに考えた【A】【B】から順に考えを取り上げてから「 $15-8$ はもうできるから、 45 を 30 と 15 に分ける」という繰り下がりの考え方に関連付けられる【C】【D】の考えを取り上げ、学級全体でポイントを共有しながら進めることができた。



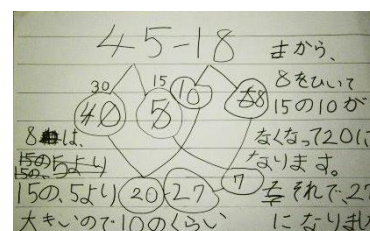
【A】



【B】



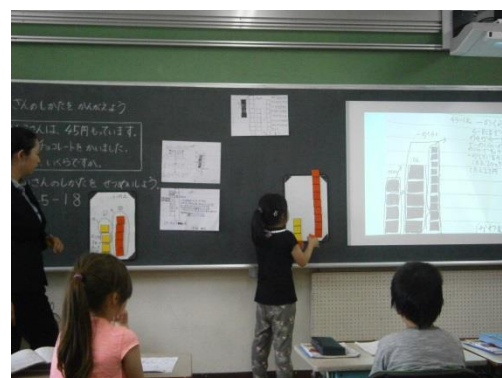
【C】



【D】

(2) ブロック操作や図の活用

考えを説明し合う活動を大切にするため、友達の発表をしっかり聞かせたいと考えた。自分の考えと同じところ、違うところを意識させるため、黒板のブロック操作をしながら説明させたり、図の確認をしたりしながら、考えの発表を行った。視覚的な効果により、意識することはできたが、発表を聞くだけで終わってしまう児童をなくすため、同じ考えの部分で挙手をさせたり、発表者以外の児童に説明を求めたりすると、なおよかった。



4 協議内容

よかった点

- ・一人一人の児童の考えが、よくかけていた。
- ・考えを紙にかいていない児童も、ノートをかき発表もしていたので、自信につながっていた。
- ・前時までの個々の考えが、しっかり発表できていた。
- ・前時までの学習を生かし、学級の中で多様な表現の仕方が表れていた。
- ・違う考え方でも、友達のかいた図や文章を見て説明することができていた。
- ・児童の思考がよく伝わった。
- ・一つ一つ考えを整理し、説明することができていた。
- ・児童と同じノートにまとめていたので、板書しやすい。

改善点

- ・発表者以外の児童の同じ考えを掲示すると、より意欲が高まった。
- ・前時の段階で考えをかけなかった児童への支援内容はどうだったか。
- ・検討場面で話し合いの時間を設けるとよかった。
- ・児童が考えた図と筆算を関連付けているとよかった。
- ・まとめの記述内容が多かった。ポイントを絞るとよい。

5 指導講評 講師：小島 宏 先生

- ・2年生のこの時期にしては集中力があり、自分の考えをよく表現できていた。発表もよく説明できていた。
- ・問題を読んで、立式、課題解決の流れ、目標の確認がしっかりできた。自分の考えを振り返る時間を設けてから発表とするとよい。1分ほどでも違ってくる。
- ・筆算の手順を説明している考えを取り上げるのは、1人でよい。
- ・ブロックの操作、色分けは、よいアイデアだった。見えにくい児童がいないか、確認する必要がある。発表者になったつもりで一緒に動かしてみようなどの声かけをするとよい。
- ・いろいろな児童を当てて、意見を丁寧に扱ってよかった。ICT活用が上手くできていた。
- ・前時に考えをかけなかった児童について、白紙のノートで話し合いに参加させるのは無理がある。その場合は、計算の答えを最初に発表させ、当事者意識をもたせ、意欲につながるとよい。
- ・集団検討の場面は、教師の意図することが、児童に分からなかった。自分の考えを分類させるなどして、児童自身に比較させたい。似ているものを、いくつも取り上げるのではなく、違いがはっきりしているものを扱い理解させたい。
- ・「一の位から先に計算する」ことが、定着していない可能性がある。
- ・筆算の仕方としてまとめるのではなく、原理を扱った点はよかったので、そのまとめでもよかった。
- ・筆算の仕方のまとめの量は多すぎた。教科書を活用しながら、ノートに筆算だけ書かせれば簡単に書ける。教科書の図と対応させながら、筆算の手順を確認する時間にあてるとよい。
- ・補充問題が当てはめ問題のすぐ下にあったため、写し間違いをしてつまずきの原因になっていた例が見られた。紙に書いて別の場所に貼るなどの工夫が必要。